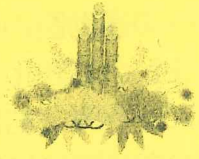


野上地区社協だより

発行 2020年1月

責任者 亀山 好和



新年のごあいさつ



野上地区社会福祉協議会

会長 亀山 好和

新年、あけましておめでとうございます。

平成から令和となった昨年は震災復興に加え、台風など自然災害が相次ぎ、甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた皆様、今なお不自由な生活を余儀なくされている皆様方には心から御見舞申し上げます。

野上地区福祉協議会としましても台風19号被害の影響で、三好・野上地区合同の視察研修やボランティア交流会などの計画中止を余儀なくされましたが、新たな高齢者支援として「買い物支援活動」を佐野市社協、蓬萊荘様の協力を得てスタートさせました。

佐野市下で高齢化率が最も高い野上地区では独居や高齢者世帯の支援・見守りのニーズが一段と増加しています。高齢者の方々が住み慣れた地域の中で安心して生活し続けるために、今後も福祉活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「令和」として、この新しい年がより良き年になりますよう心より祈念致しまして、私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。

買い物支援サービスがスタート

下作原町会長 小日向 文雄

地域貢献活動の一環として、蓬萊荘様・佐野市社協田沼支所のご協力を得て「買い物支援サービス」を4月からスタートさせました。

利用対象者は「おおむね65歳以上で買い物に不便を感じ、支援を希望されている方」を対象に毎月1回のサイクルで行っております。

蓬萊荘様の車両に野上地区社協の役員がサポーターとして同乗し、スーパーへの送迎と社協田沼支所職員さんも加わり一人一人の買い物のお手伝いを行ないます。

買い物が終わって、お店のイートインで休憩をとりながらのコミュニケーションは好評です。現在5名前後の方に利用頂いております。

高齢化が進む山間地では交通の便も充分でなく、今後も高齢者生活支援サービス推進に役立って行けたらと考えます。



「街かどカフェすまいる」視察研修

御神楽町会長 三村 和夫

*****高齢者向けサロンの先進地を訪ねて*****

東京への通勤圏の街として華々しくデビューした野木町のローズタウン、開場30数年を経過し住民の高齢化とこれに伴う空き家が目立つようになったことから、町会長・民生委員を中心に空き家を利用した街かどカフェ「すまいる」をオープンし高齢者の憩いの場所として町内のお年寄りに親しまれています。

- ① 空き家の借上げ→町会とオーナーで契約・町からの補助金を充当
- ② 運営組織→町会長・副町会長・サポーター（民生委員、ボランティア）・町健康福祉課・町社協
- ③ 運営費→利用料(1日150円)町補助金・寄付金等 「お花見・納涼会等は食事代実費」
- ④ 運営日→月曜日から金曜日の平日 午前10時から午後3時
- ⑤ 運営形態→雑談の間 自由にお茶、コーヒーを飲みながら談話
交流の間 趣味活動・囲碁将棋・読書雑誌・子供たちとの交流等

なお、町指導の「ふれあいサロン」は別途小学校の空き教室を利用して月2回実施しています。

台風水害ボランティア

白岩副町会長 横塚 則夫

11月1日に野上町会として大橋町内住宅の泥搬出ボランティアに参加しました。

1メートル超の浸水で周囲に廃棄された車両、家電品や家具が道路上に集積されるなか、住宅敷地内に堆積した汚泥を土のう袋に詰め道路に出す作業を実施、郊外の住宅であれば重機やトラックも使用出来ますが狭い市街地内では全て手作業になります。

家屋内の泥土は畳敷きの部屋は搬出済で、板張り部分は手付かず厚く堆積状態でした。



参考になったのは佐野市社会福祉協議会によるボランティア受入体制で、初対面も多い各地からの個人やグループを経験・技能・車両等装備で瞬時にチーム編成、作業内容に必要な道具機材を渡し地図による依頼宅までの移動などが混乱なく進行することでした。